

令和 2 年度

事業所名 : グループホームにこにこだいと

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372700641		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホームにこにこだいと		
所在地	〒029-0431 岩手県一関市大東町猿沢字板倉60-1		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	令和2年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「開かれた事業所」を今期の事業所理念に掲げ、地域社会との共生を大事にしながら運営しております。具体例として、地域の行事に参加したり、地産地消の食材を購入し、食事で提供したりしております。
また、今夏は法人として「児童クラブ」を期間限定で実施し、地域貢献として新たな取り組みに職員として参加したりと、これまでにない地域社会との係わり方を展開致しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国保診療所の旧施設(2階建)を改修した2階部分に開設され、1階には同運営法人の営むデイサービスセンターが設置されている。近接して診療所(かかりつけ医)があり、毎月の診療に加え緊急時にも医師の指導を受けることができるほか、同法人看護師の定期的な訪問など、医療と介護の連携が図られている。家族同行の受診時には、医療機関向けの連絡表に併せ、家族にも同様の連絡表をお渡しし、家族等の信頼を得ている。利用者は、階下の施設利用者や職員とともに笑い、助け合う、家庭的な雰囲気の中、ゆったりと暮らしている。「児童クラブ」の開設など、事業所の更なる地域貢献が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームにこここだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念にある「ホスピタリティ精神」を軸とした支援を、ミーティングで確認したり、日々の業務の中で心掛けながら実施している。	理念は開設時に皆で作らされたもので、業務ミーティングや申し送りノートなどを通じて職員間で共有し、日々の介護サービスに当たっている。ケアプランの作成、見直しの際には、理念に沿っているかどうかをケアミーティングで確認し、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に作品を出展したり、学校行事に招待され、参加し交流している。 ※今年度はコロナ禍の影響で不参加。	天候と相談しながら、散歩をしているほか、今年度はその殆どがコロナ禍のため中止となっている。例年は、階下の施設と一緒に開催する納涼祭、あんどん祭り等の行事に参加する多くの地域の皆さんと、交流を重ね、子どもたちとも小学校を訪問したり訪問を受けたりして、楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域代表の方々に発信したりと「開かれた事業所」として努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では近況報告を通し、推進委員の方々から意見等を頂き、サービス向上に努めている。 ※今年度はコロナ禍の為、会議は中止。	利用者代表や家族代表も委員に依頼し、隔月に開催している。これまで、事業所報告のみならず、各委員からは、防災協力隊の結成や薬のチェックシートによる誤投薬防止など、多方面からの意見や提案があり、活発、有意義な会議となっている。本年度は書面開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一関市広域行政組合や、市の福祉課の担当様に電話や、または直接伺ったりしてアドバイスを頂いている。	主に運営推進会議の場で、指導や助言を得ながら、情報交換や事務連絡を行なっている。要介護認定申請は、直接窓口で説明・提出するうちに担当職員と顔見知りとなっている。生活保護担当ケースワーカーや介護相談員の訪問も随時あり、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で勉強会を実施し、共通認識として取り組んでいる。また、玄関はオートロックだが夜間以外は施錠は解除している。	3ヵ月ごとに、法人主催の「身体拘束防止委員会」、事業所主催の「教育委員会」を定期的で開催し、職員の知識・意識の高揚とスキルアップに努めている。とりわけスピーチロックについては、禁句集を作成し、注意を喚起している。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホームにこにこだいとう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で勉強会を実施し、共通認識として取り組んでいる。また、事業者単体でもミーティング時に例題などをあげ、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様は現在居ないが、知識として学習し理解していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をし、ご理解・ご了承の言葉は頂いているが、後日不明な点の説明等のお電話にも対応し、安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者様やご家族代表様も参加され、頂いたご意見を参考に「開かれた事業所」であるよう努めている。	家族の面会時に、利用者の暮らしぶり等の報告・説明をしながら、情報交換方々、要望等を伺うようにしている。運営に関する意見は出されていないが、今後とも、家族とは広報「にこにこ便り」を通し、利用者の要望等は日々の生活の中で把握し、対応したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回以上の面談や定期的なミーティングで、意見や質問を頂き、出来る限りの部分で反映に努めている。	毎月の業務ミーティングや申し送り等において、職員は意見や提案等を出し合っている。年に2回の管理者と職員の個別の面談も定期的実施され、運営面の要望も出され、業務の見直しや備品の整備、人員の確保、個人的な要望などを聴き取り、業務に反映させている。	職員個別評価(いわての保健福祉支援研究会実施)の分析結果について、職員会議等で協議し、より充実した介護サービスの提供に活かされることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成前に各職員の状況等を確認し作成している。また、急遽休むといった事案にも臨機応変に対応し、協力して頂いている。		

事業所名 : グループホームにこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で各勉強会を実施したり、現場ではその状況に応じたケアを繰り返し指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修や、他施設への実地調査等で情報交換や意見交換などをしたいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人やご家族様から要望や相談を伺ったり、情報提供票や主治医意見書からの情報の把握に努め、安心して生活ができるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と情報を共有し、利用者様やご家族様が安心して生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・担当ケアマネ・主治医意見書からの情報を参考に、ご本人の状態を観察しながら必要な支援を精査し、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の知識や生活習慣・経験を尊重し、施設での生活でも活かせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事などの参加への声掛けに努め、家族の交流の機会を支援している。 ※今年度はコロナ禍の為、制限中もしくは中止。		

事業所名 : グループホームにこここだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の床屋さんに定期的に散髪に来て頂いたり、外出し馴染みの風景を散策したりしている。	利用者の年齢が高くなるにつれ、次第に馴染みの関係は少なくなっている。現在は、家族や訪問してくれる小学生や訪問理容の方との関係が馴染みとなっている。日常の介護を通じ、これまでの馴染みを把握し、介護に活かしていきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介し、利用者様同士の会話をもうけたり、レク活動や家事を通して関係性を構築している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されてご家族様とお会いした際には、近況をうかがったり、施設や法人の行事にお誘いしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日々の会話や行動からくみ取ったり、困難な場合はケアミーティングで検討している。	お話し出来る利用者からは、声かけや普段の会話の中で暮らし方等の希望を伺い、会話等が難しい方からは、決して無理強いすることなく、その態度や表情、声かけの反応等を見ながら、察するように心がけている。気づいた点は、ケアプラン等に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様、または情報提供表から情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿って支援を行うことで出来ること出来ないことを精査・検討し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアミーティングにて、職員から情報や意見を収集し、主治医委やご家族様・ご本人の意見も取り入れながら介護計画を作成している。	職員のモニタリング資料をもとにして、毎月、ケアミーティングを行っている。ケアプランの見直しは、3ヵ月毎に実施し、リーダーと管理者、計画作成担当者による調整、見直しを経て計画案を取りまとめ、家族に説明、了承を得ている。週1回来所する看護師の報告や助言も盛り込んでいる。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームにこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、申し送りやミーティングで情報を共有しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のご要望にd着る限り対応できるよう、ご家族様のご協力を得ながら実施している。また、受診対応もご家族様の状況に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や行事参加などで、地域社会や地域の方々との交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の要望を尊重し掛かり付けの医療機関にて定期受診をして頂いている。また、場合によっては職員も同行し対応している。	隣接の国保診療所等が、利用者の希望するかかりつけ医となっている。通院同行は家族対応を基本にしながら職員の同行も考慮している。普段の健康管理は、かかりつけ医の指導・助言を得ながら同法人の看護師と職員で行なっている。医師と円滑な連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師による定期訪問にて利用者様の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。利用者様に特変が生じた場合は適切な処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には情報提供を行い、入院中は状態把握の為に医療機関との連携に務めている。また退院後の支援方法を主治医やご家族様と相談し、方針を共有している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームにこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時にご家族様に説明をし同意書にサインを頂いている。また、法人全体でターミナルケアについての研修を実施し、共有に努めている。	「重度化・看取り指針」を作成して、基本的な対応について利用開始時、家族等に説明・了承を得ている。現在看取り対応を要する方はいないが、今後の対応に備え、看取り経験のある職員や医師・看護師等による研修会を実施したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて救急救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は自主訓練も含め年2回以上実施している。また、地域住民の方も参加される夜間避難訓練も実施している。	毎年2回階下の事業所と合同で定期的に開催している。とりわけ、当事業所は2階にあるということで、エレベーター停止時の避難など、様々な訓練に取り組んでいる。訓練は、地域防災協力隊の参加・協力を得てより実践的なものとしている。食糧を備蓄し非常時の発電設備も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の想いを尊重し、または汲み取り、支援に努めている。また、声掛けや介助で不適切が無いようにミーティング時や日々の業務の中で指導している。	人生の先輩であり、経験豊富な方々であることを肝に銘じながら、「さん付け」で語りかけている。トイレ誘導の際には、より近くで、小さい声で、そっと呼びかけるように細心の注意を払っている。居室に入る際には、必ず声がけし利用者の方の理解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた声掛けにて想いを聞き出し、または汲み取り、自己決定が出来るよう支援し、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や気持ちを尊重し、職員本位の支援や介助にならないよう心掛けて努めている。		

事業所名 : グループホームにこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様には衣類の選択をして頂いたり、時には化粧されたりしている。また、定期的に散髪をし、身だしなみの支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食材の下ごしらえをしたり、食器洗いや食器拭きに参加して頂いている。また、行事の際はいつもとは違った献立にしたりと支援している。	「メニュー委員会」で作成する1ヵ月分の献立に従って、職員が交代で調理に当たっている。利用者は、買い物や下拵え、配膳、下膳、片付け、テーブル拭きなど、それぞれに出来ることや好きなことに加わっている。家族からの食材やおやつの違いもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事摂取量を記録し、体調管理している。また、体調や状況に合わせて食事形態を工夫し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや誘導を実施している。また、必要に応じて口腔ケア介助も務めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力や状態を考慮しながら、出来るだけトイレでの排泄を促している。また、訴えが無い利用者様に対しては定時誘導にて対応している。	何らかの介護用品を使用している方は、半数ほどいるが、日中は全員が職員の声がけ誘導で、トイレで排泄している。夜間についても、殆どの方が、声がけ誘導でトイレで排泄している。これからも可能な限り、布パンツの使用の継続を支援していきたいとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品飲料や水を提供し便秘予防に努めている。また、排泄状況を毎日記録し、定期受診時に主治医に相談したりして下剤を処方して頂いたりと対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に合わせた支援をしている	利用者様の体調や気分、または希望に対応しながら入浴を実施している。臨機応変に午前中または、午後に入浴したりと利用者様本位に対応している。	1週に2回以上、午後の入浴を基本として、清潔保持を心がけている。了解を得て異性介助も行なっている。菖蒲湯や入浴剤なども活用しながら、楽しい入浴に繋がるよう努めている。入浴を嫌がる方には、無理強いせず、後刻又は後日、足浴や清拭で対応している。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホームにこにこだいとう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中になるべく活動を促し、夜間はしっかりと就寝出来るよう努めている。必要な場合はご家族様・主治医様に相談し眠剤を処方して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の効能を理解・把握し必要な場合は介助支援している。また、誤薬や飲み忘れが無いように服薬チェック表を活用し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞やテレビの視聴、レク活動等、家事等に参加して頂き、その中で出来ること出来ないことを精査しながら利用者様の生活支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候、状況に応じながら散歩やドライブ・買い物支援に努めている。また、ご家族様との外出・外泊にも柔軟に対応し支援している。	利用者の気分や体調、天候等と相談しながら、近隣の散歩を心がけている。コロナ禍のため外出が思うように出来ないため、近隣のドライブや外気浴などをしながら、気分転換を図るように努めている。今後は、映像なども活用して、外出や旅行の気分を味わって欲しいと管理者は考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の預り金制度は廃止しておる為、欲しい物がある場合は一緒に買い物に出掛けたりして、買い物の機会を支援している。 ※今年度はコロナ禍の為、積極的に実施はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて利用者様とご家族様の電話仲介支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに花などのプランターを設置し、観賞して頂いたりホール内には季節を感じる装飾を行ったりしている。また、毎日施設内の掃除を利用者様と一緒にしたりして、環境整備支援に努めている。	共用のホールには、光が差し込み、居室の南側にはバルコニーが備えられている。食卓の近くには、ソファや椅子がゆったりと置かれ、それぞれに好きなどころに腰をかけている。コスモスなど、季節の花も飾られ四季の移ろいを感じさせる。気になる臭いなどはない。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームにこここだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間など数か所にソファを設置したり、ベランダや廊下には椅子を設置し、お好みの場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるよう、出来る限りご本人の好みに任せている。また、ご本人の馴染みのものやご家族様の写真などを飾ったりして支援している。	ベッドやクローゼット、整理ダンスが備えられ、利用者は、テレビや座椅子、家族写真や位牌など、使い慣れたものを持ち込み、置いたり壁に飾ったりしている。居室は職員と一緒に清掃行なって綺麗にしている。入口には、表札・アマビエを掲げ、自室を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況や状態に応じて環境整備に努めている。混乱や危険が生じるような場合は再度検討・精査し、利用者様が安心・安全に生活が出来るように支援し努めている。		